

## 開講式・深海基礎講座

「深海」に対するファーストインプレッションの整理～富山湾を中心に深海についての基礎を学んだ。富山湾の地形、能登半島地震による地形の変化、深海魚の体のつくりなど基礎的学習を行った。



## 駿河湾遠征と富山湾受け入れ・駿河湾キッズとの交流

富山湾と同様、日本3大深湾のひとつ駿河湾での合宿。沼津港深海水族館や駿河湾深海生物館を訪問。駿河湾のキッズ達とも交流した。また逆に駿河湾キッズを富山湾で出迎え交流・親交を深めた。



## 成果発表会

パワーポイントや動画撮影も学んだ上で、1年間の成果、個別研究の内容を1人ずつ発表した。駿河湾キッズがオンラインで参加。逆に駿河湾の発表会にオンライン参加し、お互いの刺激とした。

- ★2月1日(土) 日本海交流センター(射水市:海王丸パーク内)で実施
- ★審査員  
日本財団としての審査：日本財団海洋事業部：中嶋竜生部長  
さかな愛を評価する審査：株式会社ウオー代表：中川めぐみ氏  
アイデア・発想力を審査：株式会社ウサギ代表：高橋晋平氏
- ★司会進行 富山テレビアナウンサー：深津麻弓  
よしもと住みます芸人：吉田サラダ
- ※駿河湾の成果発表会は、1月26日(日)に実施。

## 【深海基礎講座(最終回)および卒業式の開催について】

- ★3月1日に深海基礎講座(最終回)を開催。
- …秋までに基礎講座や駿河湾連携企画を終え個別研究に入ったため、研究途中にインプットを挟むのをやめ、成果発表の後ではあるが、富山湾の深海魚に関する漁が盛んな冬に、漁や食に関する講座を開催、加えて卒業式を行った。発表会後の研究生たちの感想等を集約するとともに次年度へのスタートの意気込みも持たせた。

開講式・基礎講座  
(6月～9月)

フィールドワーク  
(6月)

駿河湾との交流  
(8月～9月)

個別研究  
(10月～12月)

成果発表会  
(2025年 2月1日)

まとめ番組  
(2025年3月)

## フィールドワーク

富山高等専門学校の練習船「若潮丸」に乗船。海底300mの深層水の採取、海底の水圧実験、深海のプランクトンの採集および顕微鏡を使った観察などを行った。



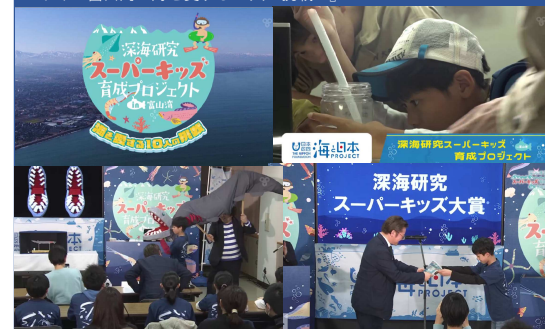
## 個別研究

基礎講座・フィールドワーク・駿河湾遠征で学んだこと、感じたことをきっかけに、「より深く学びたいこと」を見つめ、専門家と繋いで学習、研究を行なった。



## まとめ番組の放送

成果発表会の様子はもちろん、一年間の講座での研究生たちの成長を追いかけた。  
●3月22日(土)10:50-11:50『深海研究スーパーキッズ育成プロジェクトin富山湾～海を愛する10人の挑戦～』





### 開講式・深海基礎講座

#### 実施内容

「深海」に対するファーストインプレッションの整理～富山湾を中心に深海についての基礎を学んだ。富山湾の地形、能登半島地震による地形の変化、深海魚の体のつくりなど基礎的な学習を行った。

#### 成果

何よりも「自分たちの海」である富山湾を身近に感じてくれた。水中映像、深海魚の解剖、地形の学習などどれも新鮮に興味深く参加してくれ、有効な講座だったという自負はある。

#### 課題・改善点

講座スタートが6月。このタイミングでは春の漁期が終わっている。食べることも含め、講座に入れ込みたいため、3月に追加講座を実施。次年度は春に実施することとしている。



### フィールドワーク

#### 実施内容

富山高等専門学校の練習船「若潮丸」に乗船。海底300mの深層水の採取、海底の水圧実験、深海のプランクトンの採集および顕微鏡を使った観察などを行った。

#### 成果

ハードスケジュールだったが、開講式と地形を学んだ翌日にいち早く富山湾に出るという体験は効果的だった。内容も深海への研究心を煽るもので成功だった。

#### 課題・改善点

今年度の実施内容について大きな課題は無いが、来年度は「若潮丸」が更新の時期で使えない可能性が高いため、代替え企画を模索、検討しなければならない。



### 駿河湾遠征と富山湾受け入れ・駿河湾キッズとの交流

#### 実施内容

富山湾と同様、日本3大深湾のひとつ駿河湾で沼津港深海水族館や駿河湾深海生物館を訪問し合宿を行った。逆に駿河湾キッズを富山湾に迎え、合同で深層水やホタルイカ、地形の違いを学んだ。両研究生による交流講座も実施した。

#### 成果

駿河湾の“本物の”深海魚の姿を見ることができたのは何物にも代え難い体験だった。富山湾では、深層水の富山と静岡と活用法が違うことや、地形や魚種の違いなども学び、同じ深海なのに「違う」ことを学ぶことができた。また駿河湾の子供たちとの積極的な交流は、大切な経験となった。

#### 課題・改善点

駿河湾の深海生物は富山の研究生にとっては得難い良い刺激があるので、より良い遠征を構成するため、事前にもっと深く富山湾をインプットしておきたい。また遠征前に合同講座やオンライン企画を早く実施することで、連携に一体感と深みを持たせることができるのでは、と考える。



### 個別研究

#### 実施内容

基礎講座・フィールドワーク・駿河湾遠征で学んだこと、感じたことをきっかけに、「より深く学びたいこと」を見つめ、専門家と繋いで学習、研究した。内容は純粋な学習的な研究に留まらず、芸術や料理など、幅広いアウトプットの形を目指した。

#### 成果

純粋な深海魚や富山湾の構造、深層水の活用方法等の研究から、造形、料理、土産、災害食など興味や取組について、方向性に幅のある形となった先生となった造形作家や料理人は地元・富山の方々と、地域の海との繋がりがより意識できたのがよい形であったと考えている。

#### 課題・改善点

早くから個別テーマについて意識するように研究生と会話してきたが、保護者が自分の知識の範囲で誘導しがちなケースもあり、本人-事務局-保護者のより密なチームワークが必要と感じている。



### 成果発表会

#### 実施内容

パワーポイントや動画撮影、アナウンサーから話し方も学んだ上で、1年間の成果、個別研究の内容から自分なりのアウトプットを考え、1人ずつ発表した。駿河湾キッズの発表の見学し刺激を受け、逆に発表を見てもらって刺激を与えることとした。



### まとめ番組の制作放送

#### 実施内容

成果発表会の様子はもちろん、一年間の講座での研究生たちの成長を追いかける内容とする。子供たちの生の声をできるだけ活かした構成とする。

#### 成果

2月1日(土)に実施。審査員は3人。日本財団としての審査として中嶋竜生部長、さかなへの愛を評価する審査として中川めぐみ氏、豊かなアイデアを審査として高橋晋平氏に依頼した。各キッズさまざまな発表方法、アウトプットで表現することができた。

#### 課題・改善点

アウトプットの形としては良い形ができたのではと考えているが、もっとエッセンスとして「研究」の要素を加えるよう指導できたらよかった。個別講座でかなり深い学習が来ているキッズも短時間の発表に研究要素とアウトプットを詰め込むのは物理的に困難だった。

#### 成果

3月22日(土)午前に1時間番組を放送。講座ごとに3分番組にまとめて放送してきたので、うまくまとまっていた。成果発表会の後、3月1日に行った卒業式も撮影し入れ込むことができた。

#### 課題・改善点

一般の視聴者の皆さんがより見やすいようにタレントを立てる等の設えが必要かは要検討か。関係者はもちろん、そうでない方々の意見も確認しながら次年度の構成を考えていきたい。



## 富山湾キッズたちの抱負～開講式を終えて～

**竹田柚衣（中2）**

将来、獣医師になりたいと思っています  
みたことのない深海魚、知らない深海魚  
を見たり、解剖して内臓なども見てみた  
いと思います。

**吉野凜（中2）**

過去にホタルイカすくいに行き感動しま  
した。ホタルイカの骨格標本を作ったり  
寄生する旋尾線虫を見てみたいです。

**坂本六花（中1）**

水産獣医師など命を助ける仕事にあこが  
れがあります。このプロジェクトを自分  
の成長に繋げて将来の目標に近付きたい  
です。

**中西瑠煌斗（中1）**

深海魚はなぜあの水圧、あの温度に耐え  
られているか知りたいです。

**奥田颯光（中1）**

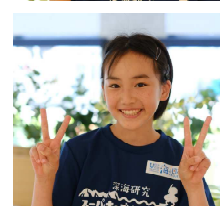
水深が少し違うだけで生態系が大きく違  
うので、富山湾と駿河湾の生き物の違い  
を詳しく知りたいです。

**加古理裕（中1）**

富山湾について知りたい。深海生物の暮  
らし、食べ物などを観察してみたいと思  
います。

**越桐春馬（小6）**

なぜ水中なのに熱水噴出孔は冷めてしま  
わないのか…深海について学びたいこと  
がたくさんあるので、一生懸命取り組ん  
でいきたいです。

**大津悠佳（小5）**

富山湾の海水はなぜ栄養が多いのか。  
蟹気楼はなぜ起こるのか、に興味あり  
ます。

**宮城華（小5）**

ミノカサゴのような派手な魚からオニダ  
ルマオコゼのような地味な魚まで、なぜ  
そんな形になったのか、なぜそんな色な  
のか具体的に調べたいです。

**三上慶己（小5）**

4年生から魚に興味を持ちました。将来海  
の研究者のなる時、どんな勉強をしたり  
どのようなことをしたらいいのか知りたい  
です。

## プロジェクトの様子はプログラムごとにまとめ、テレビ放送！

## ⇒ 放送した動画はWEBでも公開



## 放送日時

2024年6月30日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

## #1 開講式・基礎講座

## 「富山湾を知る」

## 放送内容

受付を済ませたキッズたちはお揃いのTシャツに袖を通し、開講式へ。その後、初回の深海基礎講座の講師は海上保安庁・火山調査官の南宏樹さん。富山湾の地形や、能登半島地震で起きた海底地すべりについて学んだ。



## 放送日時

2024年7月7日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

## #2 フィールドワーク

## 「富山湾を知る乗船体験」

## 放送内容

富山高専の練習船・若潮丸に乗って富山湾へ出た小中学生10人の研究生。商船学科の先生や学生の指導を受け、深層水や深海の水圧、深海に住むプランクトンなどの研究を行った。



## 放送日時

2024年8月4日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

## #3 基礎講座

## 「富山湾の生物を知る」

## 放送内容

小中学生10人の研究生が3回目の講座に参加。魚津水族館で富山の溪流から深海までに住む魚に土ついて学んだ後、ノロゲンゲやザラピクニン、ヤマトコブシカジカなど富山湾に住む深海魚の解剖に挑戦、皮膚やウロコの様子、腸の長さやウキブクロの有無などについて学んだ。



## 放送日時

2024年9月1日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

## #4 駿河湾遠征

## 「未知の深海魚との出会い」

## 放送内容

小中学生10人の研究生は、夏休みを利用して日本一の深さを誇る駿河湾を訪問。沼津港深海水族館では、富山湾では見ることのできない深海魚の数々に出会い興奮が止まらない。また「駿河湾」で活動するキッズたちと共同学習も行い、ともに疑問を解決するという貴重な体験ができた。



## 放送日時

2024年10月6日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

#5 基礎講座(駿河湾キッズと)  
「深層水・水中ドローン」

## 放送内容

駿河湾キッズを迎えての合同講座。水中ドローンで撮影した海底映像で富山湾の深海生物について学んだり、海洋深層水分水施設「アクアポケット」で富山湾と駿河湾の深層水の違いを学習。また、カードゲームを使って海ゴミを無くす学習を共同で行い、友情と学びを深めた。



## 放送日時

2025年2月2日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

#6 個別研究・発表用講座  
「伝えたいのはこれだ」

## 放送内容

これまで研究したことをわかりやすく発表するにはどうしたらよいか「表現の講座」を開催。自分の性格に合った効果的な発表資料を作り方、テレビ番組ディレクターによる動画制作のポイント、アナウンサーからの話し方講座の受講した。



## 放送日時

2025年3月30日(日) 11:45-11:50 (正味3分)

#7 最終基礎講座・卒業式  
「富山湾の生物を食す!」

## 放送内容

いよいよ最終講座。キッズたちは、魚津港で底引き網漁の水揚げを見学した後、バイ、アマエビ、ゲンゲ、アンコウなど富山湾の深海魚の特別ランチを堪能。そして改修されたばかりの魚津水族館を見学し、卒業式へ。9ヶ月を過ごした仲間たちとの別れに涙するキッズも・・・。



## 放送日時

2025年3月22日(土) 10:50-11:50

深海研究スーパーキッズ育成  
プロジェクトin富山湾  
～海を愛する10人の挑戦～

## 放送内容

プロジェクトがスタートした6月から、基礎講座、駿河湾遠征フィールドワーク、駿河湾キッズとのふれあいなど1年間の事業の流れを紹介するとともに、様々な趣向を凝らしたアウトプットが相次いだ2月1日の成果発表会の様子をダイジェストでまとめて放送した。

#1～#5の様子は、ニュース番組「ライブBBT」15:20-15:45内にて再放送。

#1 8月28日(水)、#2 8月29日(木)、#3 8月30日(金)、#4 10月8日(火)、#5 10月9日(水)



## 学習し、吸収進化する富山湾キッズたち～駿河湾遠征を終えて～



竹田柚衣（中2）

沼津港水族館の展示の仕方が楽しく、いろんな魚の違いを比較しながら見ることができるのが楽しかった。今回見つけた違いや共通点を「なんだろう」という疑問を解消することで学びに繋がりたい。



吉野凜（中2）

駿河湾の模型を作ることで、富山湾との地形の違いがよくわかりました。



坂本六花（中1）

深海魚にはいろんな特徴があって、武器とか目が大きいとか電気を流すとか、すごい面白かった。これから水族館とかに行く時には、そんな特徴にも注目して見ていきたいと思いました。



中西瑠煌斗（中1）

深海生物の多様性について学び、地形についても学びました。漂着物についても学べてよかった。次のプロジェクトにかاشていきたい。



奥田顕光（中1）

富山湾と駿河湾には海の生き物の環境が違っていました。食べもの、深さ、温度いろんな変化に適応できる生物たちを知ってとても新鮮な発見、体験になりました。



加古理裕（中1）

富山湾と違う生き物がいる理由を知ることができて、すごいい体験になりました。



越桐春馬（小6）

からだがブヨブヨしていたり、深海魚には他の魚にはない特徴があって面白いと思いました。知らないことがたくさんあったのでこれからも学んでいきたいと思いました。



大津悠佳（小5）

自分とか他の人が疑問に思ったことをみんなで解決していく体験ができてよかった。ひとりではできない貴重な体験ができてよかったです。



宮城華（小5）

前から気になっていたミノカサゴの色やトゲについて詳しく知ることができてよかった。この後、もっと深掘って調べてみたいと思いました。



三上慶己（小5）

駿河湾と富山湾の生き物、地形の違いがあることがよくわかりました。

## 学習し、吸収進化する富山湾キッズたち～個別研究テーマ～

氏名	学年	研究テーマ	具体的に・・・	講師
竹田 柚衣	中2	一石五鳥！？ 深海の新たな可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島地震を契機に、富山湾の未利用魚を使った防災食を作れないか考えた。</li> <li>・富山湾の深海魚の調理に詳しい料理人からヒアリング。</li> <li>・防災食・非常食の商品化に長けた食品メーカーにインタビュー。</li> </ul>	四季料理 悠(魚津市) 海野文章氏 ホリカフーズ(新潟県魚沼市) 井口学氏
吉野 凜	中2	腸は超すごい！ ～理想の深海魚図鑑～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深海魚・浅瀬の魚ともに解剖をし、心臓、えら、血液…について比較する。</li> <li>・深海魚としてベストの内臓形態についても考える。</li> <li>・学んだことを元に油粘土で理想の深海魚を作ってみた。</li> </ul>	東京大学大気海洋研究所(千葉市柏市) 猿渡敏郎助教
坂本 六花	中1	絵本で発信！ 発光生物の魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発光生物についての学習を行った。</li> <li>・そこから発想して、発光生物を主人公とした絵本を制作。</li> </ul>	中部大学(愛知県春日井市)大場裕一教授
中西 瑠煌斗	中1	ナンダと！ばばあの観察!? ～身近な深海魚～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深海魚の皮膚について学習した。</li> <li>・皮膚の研究から派生して、ナンダ(タナカゲンゲ)を深掘。ウロコ、臭いのもと、更には美味しい調理法まで考えた。</li> </ul>	国立科学博物館(茨城県つくば市) 篠原現人氏
奥田 顕光	中1	深海魚ラーメン ～最高を求めて～	<ul style="list-style-type: none"> <li>・深海魚で出汁をとり、深層水でスープを作った。</li> <li>・より旨味を出せるよう、魚種を変えてスープ作りをした。</li> </ul>	ラーメン真源(射水市) 皆元徹氏
加古 理裕	中1	見える化してみる！ 三大深湾富山湾の 地形と深海生物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山湾の地形と深海魚が採取される場所の関係をまとめる。</li> <li>・富山湾のどこでどんな漁が行われているかを水産研究所および漁師にヒアリング。</li> </ul>	富山県水産研究所(滑川市)辻本良所長 他研究員の皆さん とやま市漁協 第三伊登勢丸 坂林直希氏
越桐 春馬	小6	僕のオリジナルラブカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラブカを模型制作</li> <li>・ラブカを広く親しんでもらうための獅子頭ならぬ「ラブガシラ」を制作する。</li> </ul>	マンガ家 森みちこ氏 木彫家 大野勝人氏 ほか 南砺市井波アスモの皆さん
大津 悠佳	小5	海洋深層水はどうして 作られているの？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海洋深層水(脱塩水)の味覚アンケート。</li> <li>・海洋深層水で作る商品についての研究。</li> </ul>	五洲薬品(富山市)藤井良伸氏 佐伯行紀氏
宮城 華	小5	富山湾の「毒」水槽を作れ!!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「毒を持つ水生生物」についての研究。</li> <li>・生物の生態を魅せる見せ方についての研究。</li> </ul>	魚津水族館 木村知晴研究員 生きたるミュージアム ニフレル 小畑洋館長(大阪府吹田市)



## 個別研究～成果発表会

深海研究スーパーキッズ大学



## 中西瑠煌斗 (中1)

深海魚が水圧の高い深海で生きていられるのはなぜ？という疑問から、国立科学博物館・篠原先生の講義を受け、ゲンゲの皮膚・鱗などを中心に学んだ。



個別研究を受けて、タナカゲンゲを深掘した。独特のにおいの成分や、調理してみて、味の良さなどに注目し、まとめた結果をアウトプットとした。



海と日本プロジェクト



## 坂本六花 (中1)

発光生物に興味を持ち、中部大学・大場教授とオンライン&リアル講義を受けた。発光実験やホタルミズ採取を通して、知識とともに研究者の姿勢を学んだ。



発表では、発光生物をモチーフにした絵本を作成した。自作の絵本を読み聞かせ等でも使用したい、と目標を持った。



さかな愛蔵

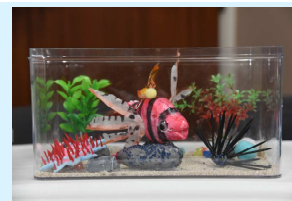


## 宮城華 (小5)

当初より「毒」に強い興味を持つため、毒生物の展示をしたい、と希望。魚津水族館で生態を学ぶとともに、展示方法にこだわりを持つニフレルの小畑洋館長を訪ねた。



発表では、照明へのこだわりを表現した。自分で作った毒生物の水槽に様々な色、方向から照明をあて、理想の水槽作りを研究、発表した。



アイデア豊蔵



## 加古理裕 (中1)

富山湾の地形への興味が強かったため、県水産研究所で地形と生物の関係を研究することにした。より深く知るため、漁業者を訪ね、地形と漁について学んだ。



初回の基礎講座で塗った富山の白地図を起点に、取材した漁場を入れ込んだ。水の流れを模型で実験し、その動画を発表に入れ込んだ。



## 竹田柚衣 (中2)

能登半島地震を契機に、深海魚と防災食を結び付けることを考えた。個別講座では、富山湾の深海魚食を学ぶとともに、防災食のプロに気をつけることを教わった。



発表では、活用できそうな未利用魚と、それで作る防災食メニューを提案した。





吉野凜 (中2)

東京大学大気海洋研究所・猿渡助教から深海魚とサメの解剖を教わった。腸の働きなどに注目し、理想の機能を持つ深海魚を想像して油粘土で作りあげた。

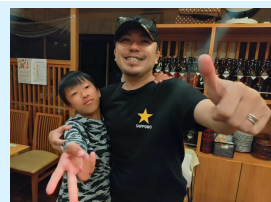


猿渡先生の講座から派生し、富山県が力を入れている「寿司」文化ともかみ合わせた魚を創造し、図鑑としてまとめ、発表した。



奥田顕光 (中1)

海洋深層水をスープに、というアイデアから、深海魚ラーメンを思いつき、魚介スープラーメンで行列のできる店を営む皆元徹さんに弟子入りし、ラーメン作りを学んだ。



手軽に家庭でできる材料でラーメンを完成させ、発表した。発表会では審査員と他のキッズに振る舞った。



越桐春馬 (小6)

ラプカが好きでたまらないので、ストレートにラプカの模型作りを学ぶことに。南砺市在住のマンガ家と彫刻家のご夫婦を師事し、足繁く通って製作活動を行った。



発表では、模型だけでなく、獅子頭ならぬ「ラプかしら」を製作・披露し、会場からの驚きの声と笑い声を誘った。



大津悠佳 (小5)

海洋深層水の味に興味を持ち、独自でアンケート調査を実施するとともに、富山で海洋深層水を活用して様々な商品開発を行っている五洲薬品の佐伯さん、藤井さんに工場見学ほかの講座を実施していただいた。



発表では、アンケート結果はもちろん、自分の考える海洋深層水の活用方法を提案できた。





## 成果発表会の様子を新聞、テレビニュース枠で紹介

メディア露出

↓

新聞掲載

および

ニュースでの紹介



2025年2月2日(日) 富山新聞・朝刊



2025年2月2日(日) 北陸中日新聞・朝刊



2025年2月1日(土) 富山テレビ「ライブBBT」で当日の様相を紹介

2025年2月7日(金) 18:09~19:00  
富山テレビ「ライブBBT」で、1年間の活動のダイジェストと  
成果報告会の様子を紹介



	課題	改善案
体制	事務局、イベントスタッフ、取材スタッフに加え、稲村修魚津水族館元館長や、東京海洋大学大学院生・大屋進之介さんに加わってもらい、知識の部分を担保できた。今回は特になかったが、彼らの予定で講座スケジュールが左右される可能性もあるため、こういった知識スタッフを充実させる必要性も感じる。	講座の説明をするどこへ行っても、好評価なので、 <b>今年度の体制づくりより幅広く施設や人を巻き込むことを考えたい。</b> 例えば、魚津水族館スタッフや水産研究所職員など。駿河湾のように高専や高校の水産課深層水を扱う企業とかもありかと考える。巻き込める人を多くしたい。
運営	運営については、現行の放送局がメインで進めていくのが妥当でスムーズ。EMF様から事務局や日本財団様との細かな進捗取りなどをこなしながらの運営は、他のスキームでは考えにくい。運営・進行について大きな問題点は無いと考える。	大きな問題は感じていない。引き続きスムーズな運営を心がける。
広報	ベースとなるリリースやイベントリポート、テレビ番組の放送はできたが、SNS等を使った細かな広報展開ができていない。 講座などは、限られた研究生のみの参加のため、細かな広報については、やることや回数よりも誰に対してどんなことをアピールするかを明確にして行わないと意味がない。	<b>参加した子供と関係者以外へ広報する目的をはっきり定めたい。</b> 「次」の子供を模索するのか、参加感を上げる仕掛けを作るのか。 やっていることのアピールではなく、「自分も」感の増幅が必要なのは、と考える。
基礎講座 & フィールドワーク	講座スタートが6月。富山だと春の深海魚の漁期が終わっているタイミングとなる。 <b>食べることも含め、講座に入れ込みたい思いもあるので、本来は少しでも早く事業をスタートしたいところ。</b> また、魚津水族館の機材が故障のため、地元の深海魚に出会えていないのもネック。また、フィールドワークでは2025年、 <b>若潮丸が使えない可能性が大きいとされており、代替企画を模索・検討の必要がある。</b>	<b>キッズの募集をはやめに始める。</b> 事業として2年目になるので、集める名目や方法に工夫もできると考える。 そして、 <b>富山湾の深海魚の漁期のうちに基礎講座もしくはフィールドワークを行いたい。</b> <b>若潮丸の代替企画は、隣県を模索か、別企画を富山高専に相談するか、検討中。</b> <b>JAMSTECの見学等他プログラムも模索する。</b>
駿河湾との連携事業	せっかく遠征しているので、その地域でしか見られないものをきちんと見せたい。特に <b>駿河湾の深海生物は富山の子供たちにとってはすごく良い刺激になるので、この体験を薄くしたくない。</b> ただ、富山では連携・合同講座に時間を取ることに留意したため、ある程度の成果も上げることができた。リアルな遠征での交流を含め、オンラインなどを使ったプラスアルファの連携事業を組み立てる必要がある。	今年度は、走りながら考えているところが大きかったが、年間計画として連携の方法を綿密に組み立てていく。 <b>早い時点で、合同でのオンライン講座を実施することなどを検討したい。</b> また、今年度同様、お互いの成果発表会にオンライン参加する。
個別研究	深海から飛び出して、アートとか幅広く個別研究を広げられたら...と想定していたが、 <b>子供たちも、運営側もなかなかテーマ選びが難しい</b> と感じた。 そもそもの想いに無理があるのか、進め方によって可能になるのか、とも考えたが、最終的にはバリエーションが出てきている。あともう少し「研究色」を意識したテーマ設定、研究・発表内容にできるといいとは思っている。	企業を最初からプロジェクトとして巻き込む、とかあるといいのか、とも考えている。 今年度の成果発表会やまとめ番組が終わった段階で、富山県庁をはじめとする自治体や県内企業に番組を配ってご覧いただき、認知の広がりを作るのもよいかと考えている。
その他	<b>保護者と連絡をとっていくのがベターなのか、本人たちと直接連絡をとっていくのがよいのか、悩みながら進めているところがある。</b> 今年度は小5～中2なので、デバイスの使用などに個人差、家庭の教育方針等に差もあると感じている。スタート時は親への連絡、講座を重ねる中で、保護者の理解を得ながら少しずつ中学生から本人への直接連絡へ移行もはじめた。よりよいコミュニケーション方法の選択が必要。 また、能登半島地震により、石川県キッズの募集をやめたが、石川に限らず、何らかの広がりがあれば良いと感じている。	個別講座にあたり、保護者および本人双方との連絡体制が出来上がってきた。今年度の研究生達との直接連絡をはじめたことをきっかけに、グループやコミュニティを作っていくことで、新年度は卒業生としてそのグループを活かすことが可能になるのかも、と考える早い段階でコミュニティづくりを意識して進めたい。 また、 <b>富山県に縛られず、活動場所として広がりを持たせるとか、卒業生を近隣県で学習させる追加プログラムを作るなど、うまく巻き込む企画を検討したい。</b> 富山県内でも、 <b>選ばれなかった子供たちを含めた広がりのあるイベントや企画の設定の模索したい。</b>

## アンケートの結果（抜粋）

プロジェクトを通して、参加者の自信がアップした！・・・「とても知っている」「とても多くある」「とてもそう思う」への回答が増加した。

		プロジェクト開始前			終了後	
Q1	今、食べている魚や海藻などの海の食べ物は、海の環境の変化や、人がむやみにたくさん獲ることによって、食べられなくなる日が来るかもしれない。	5人	50%	⇒	10人	100%
Q2	世界中で1年間におよそ800万トンの海洋ゴミが海に流れ出していて、その70～80%は、私達が住んでいる街などから出ている。	2人	20%	⇒	9人	90%
Q3	海水の温度が高くなることによって台風が大きくなるなど、気候の変化と海の変化は大きく関わっている。	4人	40%	⇒	7人	70%
Q4	海水の温度が高くなることなどにより、その場所でもともと獲れていた魚の種類が変わってきている。	6人	60%	⇒	10人	100%
Q6	富山湾は日本で最も深い湾のひとつで、多くの深海生物が暮らしている。	6人	60%	⇒	10人	100%
Q7	深海についての研究は、宇宙の研究よりも難しいと言われていて、まだまだ解明されていないことがたくさんある。	4人	40%	⇒	9人	90%
Q8	生活の中で、海のことを考えたり、調べたりすることはありますか？	0人	0%	⇒	4人	40%
Q14	あなたは、他の人の考えを聞いて、新しく発想したりアイデアが浮かんだりしますか？	5人	50%	⇒	8人	80%

自由記載の項目には、＜未知の世界を知るワクワク感＞＜質問力・観察力・プレゼン力の向上＞＜チームで学ぶ楽しさ＞＜挑戦と達成感＞を実感するコメントが寄せられた。

★深海の魅力に気付いた	・富山湾には自分が思っていたよりも魅力がたくさんあった！
	・最初は何も知らず不安だったけど、研究を進めるうちにどんどん深海の面白さが見えてきた。
★成長を実感できた！	・質問力、プレゼン力、観察力…。日常でも役立つ力がついた！
	・自分のやりたかった研究を最後までやりきれた！
★仲間とともに学ぶ！	・仲間と一緒に研究できたことが大きな経験になった。
	・調べたことをみんなで話し合いながら進めるのが楽しかった！
★研究を最後までやり遂げる！	・難しいこともあったけど、やりきった達成感がすごかった！
	・最初はわからなかったことも、最後には自分なりの考えを持てるようになった。

## 参加者の声（抜粋）

保護者や研究生からメールやLINEでたくさんメッセージをいただきました。

およそ1年にわたるプロジェクト、ありがとうございました。最終講座も娘は大興奮で、卒業式もとても感動的でした。関わってくださった皆さまに、心より感謝申し上げます。

深海プロジェクトではたくさんの方を経験させていただきありがとうございました。**親と離れての様々な経験や出会いはこれからの人生の宝物です。**ありがとうございました。

あっという間の1年でした。両立できるのかと心配しましたが**やりたいことがある時はパワーが生まれるものなのだ**と私も学ばせていただきました。ありがとうございました。また、素敵な番組も、ありがとうございました。子供たちいい顔していましたね。みんなの成長ぶりが眩しかったです。子供たちの涙と稲村さんの「終わりじゃないよ。ここは通過点だから」の言葉に大きく頷き、これからもこの関係が続きますようにと願いました。

このような機会を本当にありがとうございました。放送もとても良い番組でした。終わりたくない気持ち同じです。次のキッズも楽しみです。皆様の今後の活躍を楽しみにしております。

一年間にわたる深海プロジェクト、大変お世話になり本当にありがとうございました。娘の絵本の件につきましても素敵なお話が広がっていきそうで、感謝しております。

学生の頃からこんぶ学校やおさかな学校に参加させていただきましたが、今回の深海研究プロジェクトに1番思い入れがあったようです。1期生のみんなが可愛くて、私も1年間すごく楽しかったです。本当にありがとうございました

このプロジェクトで、本当に色々な経験をさせていただいたと思います。**将来の夢がこんなにもはっきりしたのは、初めてのことでした。**静岡に行ったり、おいしい深海魚を食べたり、大場先生とお話を伺ったりと、海に関することはもちろん、それ以外のこともたくさん学ぶことができたからこそだと思っています。**このプロジェクトを通してできた夢は、今の私の原動力です！**また、最高の仲間とも出会うことができ、参加してよかったと心から思います。毎回とても楽しくて、終わってしまうのが寂しくてしかたありません！今は発光生物に加えて、淡水の生き物にも興味があります。また、絵本第二弾も描くつもりです！これからも、このプロジェクトのように、とにかく楽しく研究を続けていきたいと思います！またOBとしても、ぜひ呼んでください！！約一年間、本当にありがとうございました！

娘を選んでいただいて本当にありがとうございました。他に魚好きなキッズはいただろうに、申し訳ない気持ちもありますが、彼女にとってはテレビの世界を間近に触れ、将来の夢に繋がる経験でした。五洲薬品さんとのご縁もいただき、感謝しております。

プロジェクトを通して大変お世話になりました。また色々な形で参加させていただけると嬉しいです。

大変お世話になりありがとうございました。素晴らしいプロジェクトに参加でき、私も勉強になりました。卒業式はもらい泣きし、まだ終わりたくないなあーでした。今後ともお身体ご自愛し、頑張ってください。来年度はテレビの前で2期生を応援しております。